【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【公表番号】特表2003-531578(P2003-531578A)
【公表日】平成15年10月28日(2003.10.28)
【出願番号】特願2001-561063(P2001-561063)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　16/18　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　16/46　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　 5/02　(2006.01)
Ｃ１２Ｐ　21/02　(2006.01)
Ｃ１２Ｐ　21/08　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/577　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ａ
Ｃ０７Ｋ　16/18
Ｃ０７Ｋ　16/46
Ｃ１２Ｎ　 5/02
Ｃ１２Ｐ　21/02　Ｃ
Ｃ１２Ｐ　21/08　ＺＮＡ
Ｇ０１Ｎ　33/577　Ｂ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成23年5月16日(2011.5.16)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７１】
生じた富化および／または保存Ｂ細胞集団は、所望の抗原と特異的に結合することを示すＢ細胞をスクリーニングするために使用され得、必要に応じて、そのようなスクリーニング手順の前に所望の抗原を用いて、インビトロでの免疫化／活性化に供される。インビトロでのＢ細胞の免疫化／活性化は、特に（ａ）抗原特異的Ｂ細胞の産生；および（ｂ）リンパ球ドナーが曝露されておらず、そして／または、強力な免疫応答を惹起できなかった自己抗原もしくは抗原を認識し得るＢ細胞の産生を刺激するのに有利である （インビトロでの形質転換されていないヒトＢ細胞の免疫化／活性化）
インビトロでのＢ細胞の免疫化の手順は、一般的に、Ｂ細胞活性化の確立された従来の技術と一致する。このプロセスは、形質転換されていないヒトＢ細胞の集団と所望の抗原を、所望の抗原に対するＢ細胞の特異的な結合に好ましい条件下でこの所望の抗原と接触させる工程を包含する。それ故、Ｂ細胞と所望の抗原の適切かつ特異的な結合を生じる任意の手段が使用され得、Ｂ細胞の免疫化は、好ましくは、「免疫化培地」中でＢ細胞と抗原を同時に培養することによって行われる。一般的に、抗原は、Ｂ細胞が増殖する固体基質上に固定化される。本発明の特定の実施形態において、所望の抗原は、このような抗原を発現する細胞の単層によって提示される。培養物中で増殖可能な任意の細胞は、抗原提示のための候補細胞である。所望される場合、所望される抗原の発現を指向し得る外因性ポリヌクレオチドが、抗原提示細胞に導入され得る。
【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１１８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１１８】
（実施例２：目的の抗原によるＢリンパ球のインビトロ免疫化／活性化）
この方法によって、特定のＢ細胞を、選択の前に抗原によって活性化した。上で単離されたリンパ球を、１０^{7}細胞／ｍｌの密度で、インビトロ免疫化培地（１０μｇ／ｍｌ インスリン、１０μｇ／ｍｌ トランスフェリン、１０ｎＭ セレン、３ｎＭ プロゲステロン、２，５μｇ／ｍｌ ヤマゴボウマイトジェンおよび１０ｎｇ／ｍｌ ＩＬ－２を補充されたＦ１２／ＤＭＥＭ）中に希釈した。次いで、この細胞を、細胞であって当該細胞に対してモノクローナル抗体が生成されたものの単層上にプレートした。本発明者らは、ヒト胎児脳初代細胞株、ヒト胎児卵巣細胞株、ヒト肺癌腫細胞株Ａ５６９（ＡＴＣＣ登録番号ＣＣＬ１８５）、および成人ヒトシュワン細胞株を使用した。